

公益財団法人 日本サッカー協会
2023 年度 第 6 回理事会

2023 年 6 月 22 日

決議事項

1. 第 19 回日本サッカー殿堂 投票選考および特別選考の件

(決議) 資料 1

今年度の第 19 回日本サッカー殿堂について、以下の通りとしたい。

【投票選考】

候補者 6 名（金田喜稔氏、原博実氏、森下申一氏、柱谷幸一氏、都並敏史氏、松永成立氏／生年月日順）を対象に投票を実施。

殿堂掲額対象となる得票率 75%以上の方はなく、該当者なしとなった。

【特別選考】

殿堂委員会より、以下の 4 名および 1 チームを第 19 回日本サッカー殿堂に掲額すべく推薦したい（生年月日順。各候補者の年齢は 9 月 10 日の日本サッカー殿堂掲額式典開催時のもの）。

1. 大澤 英雄

1936 年 1 月 22 日生（87 歳） 北海道出身

2. 大仁 邦彌

1944 年 10 月 12 日生（78 歳） 兵庫県出身

3. セルジオ 越後

1945 年 7 月 28 日生（78 歳） ブラジル出身

4. 高橋 陽一

1960 年 7 月 28 日生（63 歳） 東京都出身

5. FIFA 女子ワールドカップドイツ 2011 なでしこジャパン（日本女子代表）

※上記 4 名および 1 チームのプロフィールは別紙資料を参照

【今後のスケジュール】

9 月 10 日（日） 第 19 回日本サッカー殿堂掲額式典（トヨタ東京ビル）

2. 施設整備助成の臨時対応の件

次期施設整備助成制度が策定されるまでの間、臨時的な施設整備助成制度を以下の通り整え、施行したい。

<背景>

2015-2022 年の 8 年間にわたる JFA サッカー施設整備助成事業（前制度）が終了した。次期施設整備助成制度については、JFA ハウスの売却益をその原資とすることを想定しているが、現時点での活用方法が確定していないために制度を制定できない状況にある。

施設整備の多くは自治体の協力が必要で、その機会を逸すると整備そのものが実施できないことにもなりかねない。一方で、現段階で複数の都道府県サッカー協会（FA）から施設整備助成に関する照会が来ている状況もあり、その機会を逃さないためにも次期施設整備助成制度が策定されるまでの期間、暫定的な対策を施すことが必要になっている。

＜臨時対応の制度概要＞

財源：前制度で未活用となっている施設整備助成特定積立預金の約 12 億円を活用

期間：次期施設整備助成制度が策定されるまで

助成区分：①都道府県フットボールセンター整備助成事業

②地区サッカー施設整備助成事業

手続き：申請者は資料を整え、各 FA の承認を得た上で JFA に申請

JFA は申請を受け付けたものから順次確認し、審査・承認を行う

その他：前制度にて FA 枠 1 億円を使い切った都道府県も申請可能

本制度で活用できる金額上限は 1 FA 当たり 1 億円とする

本制度を活用した場合は、次期制度の FA 枠から当該金額を減額する

具体的な要件や手続き等については前制度に準ずる

次期制度が策定された際には本制度は発展的解消とする

充当予算の残額が発生した場合は次期制度に持ち越すこととする

3. WE リーグクラブ ASEAN 地域女子選手受け入れ支援制度の件

2021 年より実施している WE リーグクラブを対象とした ASEAN 地域女子選手受け入れに関する支援制度について、本年度は支援対象人数を 6 名から 4 名として以下の通り実施したい。

1. 趣旨・目的

女子サッカーの発展目覚ましい ASEAN 地域の出身で、WE リーグでの活躍が見込まれる選手を WE リーグに紹介し、同時に当該出身選手を受け入れる WE リーグクラブを支援することにより ASEAN 出身選手の強化育成に寄与する。

2. 概要

WE リーグクラブが ASEAN 地域の女子選手とプロ契約を締結し、当該 WE リーグクラブへの登録が完了後に、クラブからの補助金交付申請に基づき、日本サッカー協会による審査を経てクラブへ補助金（上限 300 万円）を交付する。また対象となる契約期間は 2023 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日とする。

3. 受け入れ対象クラブ

WE リーグクラブ

4. 支援対象選手

以下の①から③をすべて満たす女子選手

- ① ASEAN 地域の国籍を有しており、WE クラブとプロ契約（統一／非統一不問、ただし年俸 270 万円以上）を締結し、当該 WE クラブへの登録が完了していること

＜ASEAN 加盟国＞

インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

- ② 代表選手（ユースカテゴリー含む）として試合出場実績があり、WE リーグにおいて活躍できるポテンシャルがあること

- ③ 日本での生活（異文化）に適応できること

※一つのクラブから複数選手の申請を可能とする。

4. 国際委員会 委員変更の件

(決議) 資料2

以下の通り、国際委員を交代したい。

(変更前) 小川佳実氏：審判委員会副委員長

(変更後) 山岸佐知子氏：理事、審判委員会副委員長